

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	1 年次 ・ 通年 ・ 必修		
	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
	担当教員	池田 正利 (Ikeda, Masatoshi) 堤 隆 (Tsutsumi, Takashi)		
	教員室	池田：都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL：42-9120) 堤：都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL：42-9120)		
測量学実習 I (Surveying Practice I)	E-Mail	池田：m_ikeda@kagoshima-ct.ac.jp 堤：tsutsumi@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数	実験 / 履修単位 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) 〕 × 30 回 ※適宜、補講を実施する			
〔本科目の目標〕 測量機器の操作方法と基礎的な誤差の調整方法の習得を目標とする。				
〔本科目の位置付け〕 測量学の基本となす測量学 I の学習内容を実習を通して定着させる。				
〔学習上の留意点〕 器械の操作を確実にこなせること。また、5～6 人を一班とするグループで実習を行うので、協力して実習を行うこと。また、授業の進行状況、天候によって測量学 I の授業時間と交換することがあるので注意すること。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 距離測量	2 2	☐ 歩測、目測で距離感を身につけることができる。 ☐ 中間点を入れて巻尺を使った距離の測定ができる。	☐ ☐	次回の実習内容をプリントで配布する。各自、そのプリントを必ず一読し実習内容を理解しておく。
2. 平板測量	20	☐ 平板の据付けができる。 ☐ 導線法、放射法を用いた測量ができる。	☐ ☐	
3. 水準測量	10	☐ 昇降式、器高式を用いた水準測量ができる。	☐	
4. 角測量	8	☐ トランシットの据え付けができる。 ☐ 単測法、倍角法、方向法を用いた測量ができる。	☐ ☐	
5. トラバース測量	18	☐ 踏査、選点、距離測量、角測量、内業の作業を通してトラバース測量を遂行する能力を身につける。	☐	
〔教科書〕 測量学 I 堤 隆 コロナ社				
〔参考書・補助教材〕 適宜プリントを配布する				
〔成績評価の基準〕 実習レポート 100%－実習態度 40%				
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 3-c, 4-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕				
〔JABEEとの関連〕				

This image shows a blank sheet of white paper with ten horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		1 年次 ・ 通年 ・ 必修	
	対象学科・専攻		都市環境デザイン工学科	
基礎製図 I (Basics of Design Drawings I)	担当教員		毛利 洋子 (Mouri, Yoko) 岡松 道雄 (Okamatsu, Michio)	
	教員室		毛利： 都市環境デザイン工学科棟 2 階 (TEL : 42-9121) 岡松： 都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL : 42-9122)	
	E-Mail		毛利： mouri@kagoshima-ct.ac.jp 岡松： okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態／単位の種別／単位数		講義・演習 / 履修単位 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分)〕×30 回 ※適宜、補講を実施する		
〔本科目の目標〕 製図の基礎知識および技術の習得を目的とし、都市環境建設分野における実用製図の読み取りと作成に役立てる。				
〔本科目の位置付け〕 土木・建築構造物に限らず、いまや、あらゆる分野にわたる製図が CAD を用いて行われている。しかし、その基礎は、2 点が結ばれた直線、3 直線以上が結ばれた平面である。これら、点、直線、平面の投影を手描きの図面としてトレーニングすることで良く理解する。また、建築士の受験を前提とした製図の基礎を身に付ける。				
〔学習上の留意点〕 本科目は、講義と演習の形態をとる。立体構造物の感覚を最終目的とするため、基礎的な点・直線の投影を必ず理解する必要がある。また、将来建設関係の職業に携わるための基本的な製図の基礎を身に付けることを念頭にいれる。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. ガイダンス・製図の役割	2	☐ 図面の持つ意味、約束、建築生産における製図の役割について理解できる。	☐	教科書 p8～15 について概略を把握しておく。 教科書 p18,p19 について概略を把握しておく。 教科書 p60,p61 について概要を把握しておく。
2. 製図用具の使い方・スケッチ	2	☐ 製図用具の使い方について理解できる。	☐	
3. ドラフターの使い方・基本図形と線・面の分割	2	☐ ドラフターの使い方が理解できる。	☐	
4. 線の練習	4	☐ 課題「線の練習」が作成出来る。	☐	
5. 立体造形	4	☐ 課題「立体造形」が作成出来る。	☐	
6. 三面図の作成	6	☐ 課題「立体造形」を三面図に表す事が出来る。	☐	教科書 p20,p21 および p26～p39 について概要を把握しておく。
7. 平行投影図・透視図	8	☐ 平行投影図や簡単な透視図を作成することが出来る。	☐	
課題作品の返却と解説	2	☐ 課題作品の評価と改善点が理解できる。	☐	教科書 p60～p73 について概略を把握しておく。 教科書 p74～p79 について概略を把握しておく。 教科書 p42～p49 について概略を把握しておく。 寮室を実測しておく。
8. 平面図の意味と描き方	2	☐ 建築における平面図の意味が理解できる。	☐	
9. 製図規約と縮尺	2	☐ 製図規約と縮尺について理解できる。	☐	
10. 平面図・配置図の描き方	2	☐ 「平面図・配置図」の描き方が理解出来る。	☐	
11. 平面図・配置図の模写	4	☐ 課題「平面図・配置図」が作成出来る。	☐	
12. 立面図・断面図の描き方	4	☐ 「立面図・断面図」の描き方が理解出来る。	☐	
立面図・断面図の模写		☐ 課題「立面図・断面図」が作成出来る。	☐	
13. 住宅模型の作成	6	☐ 住宅模型が作成できる。	☐	
14. 実測と平面図・展開図	4	☐ 寮室を実測し平面図と展開図を作成できる。	☐	
15. 室内模型の作成	4	☐ 実測図を基に模型を作成できる。	☐	
課題作品の返却と解説	2	課題作品の評価と改善点が理解できる。		
〔教科書〕 「建築設計演習 1 基礎編：図法から空間へ」 峰岸 隆 ほか 著				
〔参考書・補助教材〕 プリント、スライド、 「建築デザインの基礎 ―製図法から生活デザインまで― 」 本杉 省三 ほか 編著 - 彰国社				
〔成績評価の基準〕 課題提出(100%)－授業態度(上限 10%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 3-c				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕				
〔JABEE との関連〕				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	1 年次 ・ 前期 ・ A 群		
	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
都市環境デザイン工学概論 (Introduction of Urban Environmental Design and Engineering)	担当教員	前野 祐二 (Maeno ,Yuji) 山内 正仁 (Yamauchi , Masahito) 内田 一平 (Uchida , Ippei) 岡松 道雄 (Okamatsu , Michio) 池田 正利 (Ikeda , Masatoshi) 川添 敦也 (Kawasoe ,Atsuya)		
	教員室	都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL : 42-9122)		
	E-Mail	maeno@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 履修単位 / 1 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90分) 〕 × 15回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 都市環境デザインは、建設、環境、デザインと都市生活環境などすべてを対象とする。特に建設物の成り立ちと環境保全、生活維持に必要なライフラインの役割などを理解する。目に見える建設物の単なる建設でなく、建設物の中での生活維持に必要な空調施設、上下水道施設も含めた建設物と人間生活環境を考慮したデザインを一緒に学習する。				
〔本科目の位置付け〕 都市環境デザインを学ぶための入門科目である。都市環境デザインに興味を持たせるために、できるだけ分かり易く、身近な話題を取り入れながら学習する。また、ビジュアルな手法を駆使して、建設物の概要、技術、事業等の基本的事項をコンパクトにまとめ、理解を手助けする。後で学ぶ専門科目への橋渡しの役割を担う。				
〔学習上の留意点〕 本科目は授業形式で行う。環境とは何か、建設物とは何か、デザインとは何か、常に疑問と興味を持って人間の生活空間を理解し、あるべき姿を考える姿勢を、持って授業に取り組む。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 都市環境総論	2	☐ (1) 建設物が理解できる(前野)	☐	シラバスについて、概略を把握しておく。
2. 建設物の建設方法	4	☐ (1) 建設物(橋、道路など)の構造が理解できる(前野) ☐ (2) 建設物建設工事の計画・設計・施工が理解できる(前野)	☐ ☐	事前に配布されるプリントや補助教材で概要を把握する。
3. 都市設備 (住居、道路、橋、公園、 上下水道)	6	☐ (1) 衣食住に必要な都市設備の概要を理解できる(山内)	☐	事前に配布されるプリントや補助教材で概要を把握する。
4. 都市計画	6	☐ (1) 都市の発生と発達が理解できる(内田) ☐ (2) 都市を形づくるものが理解できる(内田) ☐ (3) 将来の都市についてイメージできる(内田)	☐ ☐ ☐	事前に配布されるプリントや補助教材で概要を把握する。
5. 建築の発生・歴史	2	☐ (1) 建築の発生と発達の歴史、建築と土木の違い・共通点を理解できる(岡松)	☐	事前に配布されるプリントや補助教材で概要を把握する。
6. 建築計画・設計 建築関係の資格・業務・ 法規・建築環境	4	☐ (1) 建築における計画・設計の役割を理解できる(岡松) ☐ (2) 建築に関係する資格と業務、法規の概略を理解できる(岡松) ☐ (3) 光・音・空気・熱・水など建築に係わる建築環境工学の概要が理解できる(岡松)	☐ ☐ ☐	教科書p1～p31、p191～p219について概略を把握しておく。 教科書第 3 章について概略を把握しておく。
8. 建設材料	2	☐ (1) 土木建築材料、特にコンクリートの材料について概要が理解できる(池田)	☐	教科書 p32～p45 および第 4 章について概略を把握しておく
7. 建築構法・施工	2	☐ (1) 建築の構法と力学的性質が理解できる(川添)	☐	
	2	☐ (2) コンクリート構造物の概要が理解できる。(川添)	☐	
〔教科書〕 「建築のしくみ」 小沢宏・富田眞理子 共著、新星出版社				
〔参考書・補助教材〕 プリント等				
〔成績評価の基準〕 レポート・小テスト(100%)－授業態度 (10%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 3- c				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕				
〔JABEE との関連〕				

Memo

平成 25 年度 シラバス		学年・期間・区分	1 年次 ・ 通年 ・ A 群		
		対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
情 報 処 理 I (Information Processing I)		担当教員	山田 真義 (Yamada, Masayoshi)		
		教員室	都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL : 42-9123)		
		E-Mail	m-yamada@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数		講義・演習 / 履修単位 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分)〕×30 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 本科目は, 計算機システムに慣れ親しむとともに, Windows 系 OS PC の基本的な操作方法を習得することを目的とする。また, それらの利用方法および使用上の注意点を, 今後の PC 利用の基礎知識として活用できるようにする。					
〔本科目の位置付け〕 本科目は, 3 年生以上で学習する情報処理系科目ならびに設計製図関連の科目の基礎となる科目である。また, 本科目で修得するソフトウェアの操作方法是, 工学実験や卒業研究などレポート・論文の作成には必要不可欠である。					
〔学習上の留意点〕 本科目は演習を通じて修得する事柄が多いため, 積極的に学習に取り組み, 疑問点があれば, その都度授業担当者に質問してその疑問点をその場で無くす努力をすること。事情があり授業を欠席する場合には, 翌週の授業時間までの期間に配布プリントの有無と次回授業までに完了させるべき作業内容を確認すること。また, 授業要目毎にレポートを課すが, 提出ルールや提出期限を厳守すること。					
〔授業の内容〕					
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容	
1.オリエンテーション	2	☐ 現代社会における情報処理の必要性を理解する。 ☐ パスワード(セキュリティ)の重要性を理解する。 ☐ パスワード管理および変更ができる。	☐ ☐ ☐	次回の授業内容をプリントで配布する。各自, そのプリントを必ず一読し, 授業内容を理解すると共に, 不明部分・質問事項をまとめておくこと。	
2. Windows 演習					
2-1.Windows 利用の基本操作	2	☐ PC の各部名称とその役割を理解する。 ☐ PC の各部に対して適した使い方ができる。 ☐ OS とアプリケーションソフトの関係を理解する。	☐ ☐ ☐		
2-2.PC の起動と終了	1	☐ PC の起動と終了操作ができる。 ☐ OS へのログオンとログオフ作業ができる。 ☐ ソフトの起動・ウィンドウ操作・終了ができる。	☐ ☐ ☐		
2-3.入力デバイス	3	☐ デバイスの特質を理解し正しい使い方ができる。 ☐ 一般的なショートカットキーを活用できる。 ☐ 日本語入力モードの操作ができる。 ☐ IME 上でファンクションキーを活用できる。	☐ ☐ ☐ ☐		
2-4.ファイル操作	2	☐ フォルダーおよびファイルの概念を理解する。 ☐ フォルダーおよびファイル操作ができる。 ☐ ファイル整理法を理解し実行できる素養を養う。	☐ ☐ ☐		
3.通信基礎					
3-1.ネットワーク基礎知識	2	☐ ネットワークの構造(WAN と LAN)を理解する。 ☐ サーバとクライアントの概念と役割を理解する。	☐ ☐		
3-2. WWW ブラウザによる 情報収集と著作権	4	☐ URL からドメインの構造を理解する。 ☐ 情報の検索・絞り込み方法を理解し, 実行できる。 ☐ Web 情報の信憑性を理解し, 著作権を理解しながら, 適切に情報収集を行う素養を養う。	☐ ☐ ☐		
---前期中間試験---		授業項目 3-2 までについて達成度を確認する。			
3-3.電子メール(情報伝達)	4	☐ SMTP・POP サーバの役割を理解する。 ☐ E-mail アドレスの構造を理解する。 ☐ 電子メールの送受信ができる。 ☐ ビジネスメールのルールを理解し, 実践できる。	☐ ☐ ☐ ☐		
4.アプリケーション基礎操作					
4-1. プレゼンテーション (MS-PPT)	12	☐ パワーポイントの基本的操作方法を理解する。 ☐ カラーの使い方を理解し, 実践できる。 ☐ 人を引きつけるプレゼン資料作成のコツを理解し, 実践できる素養を養う。	☐ ☐ ☐		
---前期末試験---					
試験答案の返却・解説	2	授業項目 3-3-4-1 までについて達成度を確認する。 試験において間違えた部分を理解する。			
>>> 次頁へつづく >>>					

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		1 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		都市環境デザイン工学科	
測 量 学 I (Surveying I)	担当教員		西留 清 (Nishidome Kiyoshi)	
	教員室		都市環境デザイン工学科棟 3 階 (TEL : 42-9119)	
	E-Mail		nisidome@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 履修単位 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 測量とは、地表面上の諸地点の位置関係を測定し、決定する技術である。山や河川などの自然物を利用し、道路、鉄道、トンネル、橋などの施設をつくるにあたっては、それらの設計や施工に先駆けて、まず測量が行われる。この科目では、測量に必要な基礎的知識を学ぶ。				
〔本科目の位置付け〕 1 年次に開講される測量学実習Ⅰは測量学Ⅰで学んだ知識を定着させるために開講されている。測量の応用分野は 2 年次開講の測量学Ⅱ・測量学実習Ⅱ, さらに 5 年次開講の応用測量学で学ぶ。				
〔学習上の留意点〕 測量学を理解するためには数学の知識が必要である。測量学で扱う数学はその後に開講される専門科目でも用いることになるので、与えられた課題等は自力で解いてみる。また、電卓を使った計算練習を適宜行う。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 測量学概説	2	☐ 測量の分類ができる。	☐	教科書の1章を読むこと。
2. 距離測量	8	☐ 測量における距離の定義を知っている。 ☐ 距離測量の方法を理解している。 ☐ 距離測量の誤差の調整ができる。	☐ ☐ ☐	教科書の2章を読むこと。
3. 平板測量	8	☐ 平板測量の用語および分類を理解している。 ☐ 目的に応じた平板測量の方法の理解している。	☐ ☐	教科書の3章を読むこと。
---前期中間試験---		距離測量・平板測量について達成度を確認する。		
4. 水準測量	10	☐ アリダードを応用した測量を理解している。 ☐ 水準測量の用語および分類を理解している。 ☐ 水準測量の方法の調整ができる。 ☐ 水準測量の誤差の調整ができる。	☐ ☐ ☐ ☐	教科書の4章を読むこと。
---前期末試験--- 答案の返却・解説	2	水準測量について達成度を確認する。 試験において間違えた部分を理解出来る。		
5. 角測量	14	☐ 器械の名称と使用目的を理解している。 ☐ 角測量の方法の調整ができる。 ☐ 角測量の誤差の調整ができる。	☐ ☐ ☐	教科書の5章を読むこと。
---後期中間試験---		角測量について達成度を確認する。		
6. トラバース測量	14	☐ トラバース測量の分類を理解している。 ☐ トラバース測量の理論を理解し、内業を行うことができる。	☐ ☐	教科書の 6 章を読むこと。
---学年末試験--- 答案の返却・解説	2	トラバース測量について達成度を確認する。 試験において間違えた部分を理解出来る。		
〔教科書〕 測量学Ⅰ 堤 隆 コロナ社				
〔参考書・補助教材〕 適宜演習プリントを配布				
〔成績評価の基準〕 中間および期末試験(80%)＋課題等(20%)－準備不足・迷惑妨害行為(20%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 3- c				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕				
〔JABEE との関連〕				

Memo
